



ドライビング・アシスト(前車接近警告機能、衝突回避・被害軽減ブレーキ)

このシステムは、約5km/h以上から、車両との衝突の危険がある場合に2段階で警告を出します。そのときの走行状況によって警告を出すタイミングが決まります。

約60km/h以下の速度のときに、必要に応じてブレーキ介入が行われます。



警告

システムが作動していても、視界や交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れません。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

表示および警告が行われても、運転者自身の責任からは免れません。システムには限界があるため、警告やシステムの反応が行われなかったり、遅れたり、不適正にまたは理由なく行われたりする可能性があります。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

インテリジェントセーフティシステムをオンにした状態でけん引する場合、システムの限界により、個別の機能が誤作動するおそれがあります。事故の危険があります。けん引を開始する前に、全てのインテリジェントセーフティシステムをオフにしてください。



衝突回避・被害軽減ブレーキ(対歩行者)

このシステムは、明るいときに速度が約10km/h～約60km/hの場合、歩行者との衝突の危険を警告し、衝突の手前でブレーキを働かせます。

システムの検知範囲内にある歩行者が検知されます。



警告

システムが作動していても、視界や交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れません。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

表示および警告が行われても、運転者自身の責任からは免れません。システムには限界があるため、警告やシステムの反応が行われなかったり、遅れたり、不適正にまたは理由なく行われたりする可能性があります。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。交通状況に注意し、状況によっては積極的に介入してください。

インテリジェントセイフティシステムをオンにした状態でけん引する場合、システムの限界により、個別の機能が誤作動するおそれがあります。事故の危険があります。けん引を開始する前に、全てのインテリジェントセイフティシステムをオフにしてください。



リヤビューカメラ

リアビューカメラは、バックで駐車するときや操車するときにサポートします。
このために、車両後方領域がコントロールディスプレイに表示されます。



警告

システムが作動していても、交通状況を正しく判断するという運転者自身の責任からは免れられません。事故の危険があります。運転の仕方を道路状況に合わせてください。
交通状況と車両の周囲を直接見て補足的なチェックを行い、状況によっては積極的に介入してください。